

諏訪之瀬島の火山活動解説資料（平成 23 年 9 月）

福岡管区気象台
火山監視・情報センター
鹿児島地方気象台

御岳^{おたけ}火口では、9日と12日に爆発的噴火¹⁾が発生するなど、8日から12日にかけて小規模な噴火²⁾が発生しました。

今後も火口周辺に影響を及ぼす程度の噴火が発生すると予想されますので、火口から概ね1kmの範囲では、噴火に伴う弾道を描いて飛散する大きな噴石に警戒が必要です。風下側では降灰及び遠方でも風に流されて降る小さな噴石に注意が必要です。

平成19年12月1日に火口周辺警報（噴火警戒レベル2、火口周辺規制）を発表しました。その後、予報警報事項に変更はありません。

○ 9月の活動概況

・噴煙など表面現象の状況（図1、図3）

御岳^{おたけ}火口では、9日と12日に爆発的噴火が発生するなど、8日、9日、11日、12日に小規模な噴火が発生しました（8月：噴火なし）。12日の噴火では、灰白色の噴煙が火口縁上1,300m（最高高度³⁾）まで上がり、西に流れました。十島^{としま}村役場諏訪之瀬島出張所によると、8日、9日、11日、12日に集落（御岳の南南西約4km）で降灰が確認されました。

同火口では夜間に高感度カメラで確認できる程度の微弱な火映を時々観測しました。

・地震や微動の発生状況（図3、図4）

火山性地震は、9日から14日にかけてやや増加しましたが、その後は減少し、少ない状態で経過しています。月回数はA型地震⁴⁾が44回（8月：24回）、B型地震⁵⁾は242回（8月：62回）でした。

火山性微動は、主に9日から14日にかけて断続的に発生し、継続時間の月合計は64時間00分と、前期間（8月：15時間23分）に比べて増加しました。

- 1) 諏訪之瀬島では、爆発地震を伴い、島内の空振計で一定基準以上の空振を観測した場合に爆発的噴火としています。
- 2) 諏訪之瀬島では噴火活動が活発なため、噴火のうち、爆発的な噴火もしくは噴煙量が中量以上（概ね噴煙の高さが1,000m以上）の噴火の回数を計数しています。資料の噴火回数はこの回数を示します。また、基準に達しない噴火は、ごく小規模な噴火としています。
- 3) 2003年3月28日以降、噴煙の最高高度は遠望監視カメラによる観測値と十島村役場諏訪之瀬島出張所の報告のうち高い値を用いています。
- 4) P相やS相が明瞭で高周波成分が卓越する地震です。
- 5) P相やS相が不明瞭で低周波成分が卓越する地震です。

この火山活動解説資料は福岡管区気象台ホームページ（<http://www.jma-net.go.jp/fukuoka/>）や気象庁ホームページ（<http://www.seisvol.kishou.go.jp/tokyo/volcano.html>）でも閲覧することができます。次回の火山活動解説資料（平成23年10月分）は平成23年11月9日に発表する予定です。資料中の地図の作成に当たっては、国土地理院長の承認を得て、同院発行の『数値地図50mメッシュ（標高）』を使用しています（承認番号：平20業使、第385号）。



図1 諏訪之瀬島 9月12日の噴火の状況 (寄木遠望カメラによる)

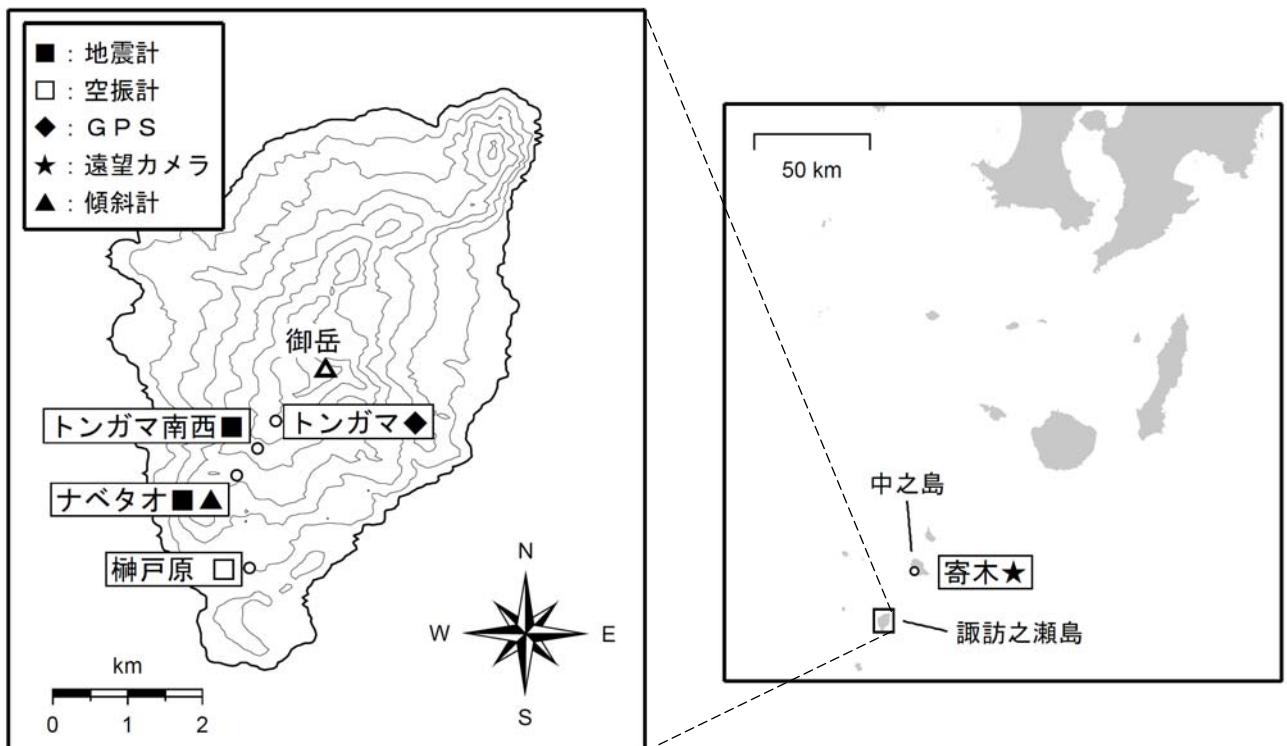


図2 諏訪之瀬島 観測点配置図

小さな白丸は気象庁の観測点位置を示しています。

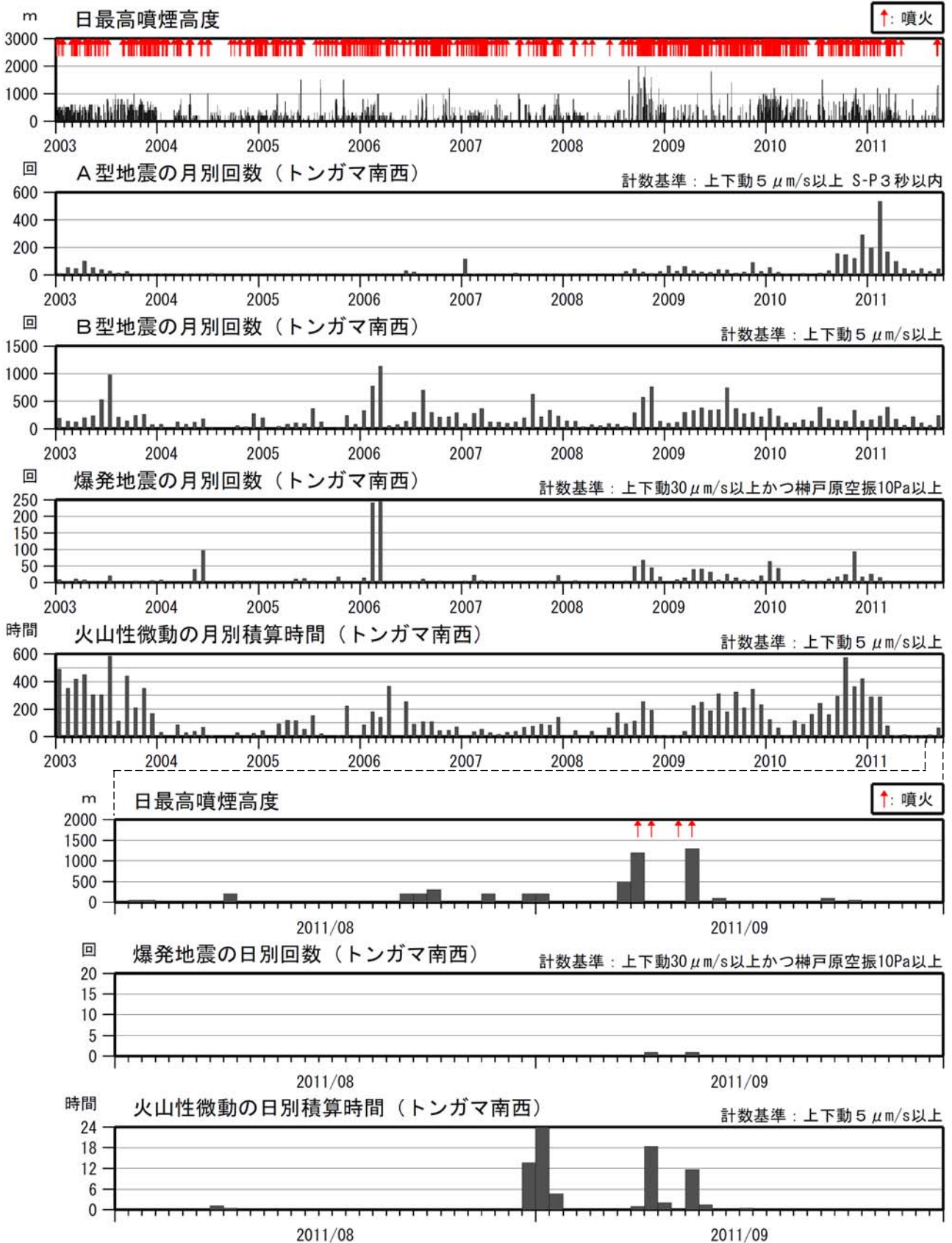


図3 諏訪之瀬島 火山活動経過図（2003年1月～2011年9月）
 長期にわたり噴火を繰り返しています。

<9月の状況>

- ・ 9日と12日に爆発的噴火が発生するなど、8日、9日、11日、12日に小規模な噴火が発生しました。
- ・ 火山性地震は、9日から14日にかけてやや増加しましたが、その後は減少し、少ない状態で経過しています。

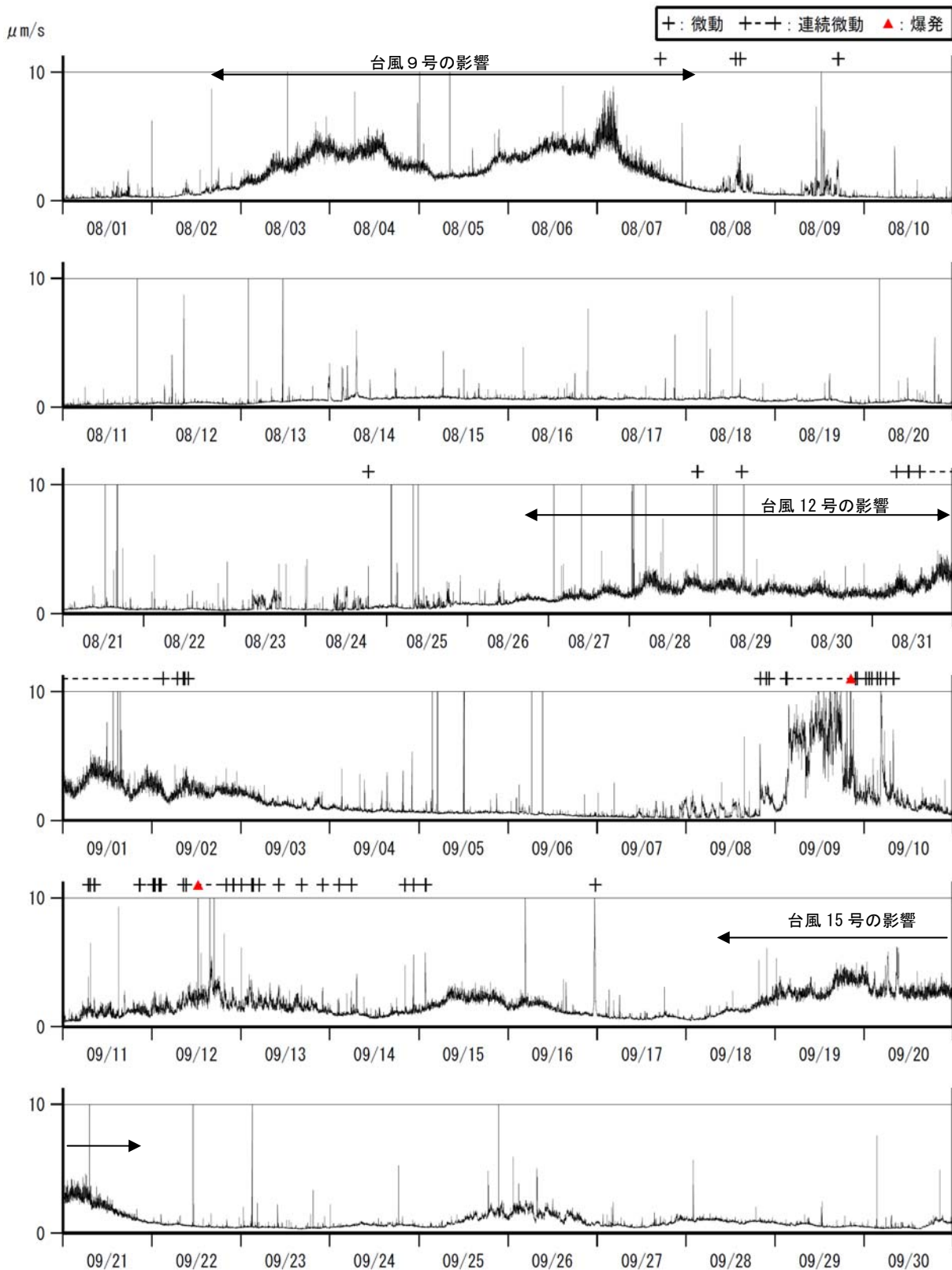


図 4 諏訪之瀬島 1 分間平均振幅の時間変化（トンガマ南西上下成分）

（2011 年 8 月～2011 年 9 月）

< 9 月の状況 >

火山性微動は、主に 9 日から 14 日にかけて断続的に発生しました。継続時間の月合計は 64 時間 00 分と、前期間（8 月：15 時間 23 分）に比べて増加しました。